

日本骨髄バンクの現状（2003年6月末）詳細は別添一覧を参照下さい。

	前月	当月	現在数	累計数
ドナー登録者数	1,657	1,632	171,753	215,390
患者登録者数	159	145	2,157	14,486
骨髄移植例数	59	73	-	4,931

注）数値は速報値のため次月以降に訂正されることがあります。

① 移植5000例まであと69例。今月末には到達の見込み。

日本骨髄バンクでの骨髄移植件数が2003年6月末に4931例に達しました。今月は約70件の移植が予定されていますので、月末頃には5000例に到達する見込みであり、8月1日に記者発表を行う予定です。この5000例到達を記念し、当財団では9月28日（日）午後1時30分より、早稲田大学大隈講堂において全国大会を開催します。多くの皆様のご参加をお待ちしております。*6月号の記事において到達月に誤りがありました。1000例到達は1997年1月、2000例は1999年5月、3000例は2000年11月、4000例は2002年3月にそれぞれ到達しています。お詫びし訂正申し上げます。

② 第25回通常理事会・第25回通常評議員会が開催されました。

去る6月27日（金）、廣瀬第2ビル会議室（東京千代田区）で、通常理事会並びに通常評議員会が開催され、平成14年度事業報告案と一般会計、特別会計収支決算案が承認され、同意されました。また、顧問の再任案と評議員の選任案（補充）、理事の選任案（補充）がそれぞれ承認されました。

③ 6月のドナー登録状況報告。7月には防衛庁で初のドナー登録会開催。

6月のドナー登録者数は1632人で、取消者数は453人、実質増加数は1179人で前年同月の登録者数の104%という実績でした。登録会は71回実施され（うち献血併行型54回）、合計720人の方にご登録をいただきました。先月号のマンスリーでお知らせした防衛庁のドナー登録推進の協力は、7月2日付けで連絡文書が発出され、各部隊へポスターとパンフレットを配布しました。7月22日、23日には防衛庁本庁（東京市ヶ谷）で献血併行登録会が予定されています。今後、各部隊の登録会開催に際しましては、地区普及広報委員をはじめ支援団体の皆様のご協力が不可欠です。どうぞ宜しくお願いいたします。

4 台湾骨髄バンク (BTCSCC) 採取を再開

台湾骨髄バンク (BTCSCC) は、2003年5月1日より重症急性新型肺炎 (SARS) の蔓延を理由に採取を一時的に停止しておりましたが、7月4日付けで再開の通知を発出しました。これにより、台湾バンクのコーディネート、採取は通常の体制に戻ります。このお知らせは、当財団ホームページ (<http://www.jmdp.or.jp/pt/index.html>) でもご確認いただけます。

5 専任コーディネーター、7月より活動開始。

7月1日から、19人の専任コーディネーターが当財団非常勤職員として採用され、活動を開始しました。全国各地での通常のドナーコーディネート活動のほか、コーディネーター研修会の企画、コーディネート資料の検討やビデオ作成など、ワーキンググループとして活動を行っています。コーディネーターの専任化は、これまでのコーディネーター活動が、社会的に認知され高く評価されたことにより、国の予算措置が確定して実現したものです。

6 信越地区事務局と関東地区事務局が統合します。

当財団のドナーコーディネートを行う地区事務局はこれまで北海道、東北、関東、信越、中部、近畿、中四国、九州に設置されていましたが、この度、業務の集約化と経費削減をはかるため、7月末をもって信越地区事務局を関東地区事務局へ統合することになりました。名称を「関東地区事務局」に統一、8月1日 (金) から新たにスタートします。関東地区事務局の所在地、電話番号、FAX番号に変更はありません。なお、信越地区事務局は、7月29日 (火) で業務を終了します。

7 研音タレントチャリティーオークション、ネットで開催、今夏から定例化。

俳優の唐沢寿明さんの呼びかけではじまった大手芸能プロダクション「研音」グループのチャリティータレントオークションは、年2回定例開催されることとなり、今夏は「7月28日～8月11日」が入札期間となりました。オークションへの参加は、サイト上のみで行われますが、会員登録が必要となります。詳しくは研音のホームページ <http://www.ken-on.co.jp> (無料) をご覧ください。今回は唐沢寿明、山口智子夫妻をはじめ41人のタレントさんが出品されます。落札された方には商品と共にタレントさんの直筆サイン入りポラロイド写真が送られます。

8 公共広告機構（AC）新キャンペーン、夏目雅子さん登場。

公共広告機構（AC）の新キャンペーンが7月からスタートしました。今回は夏目雅子さんの登場で、骨髄バンクのなかった昭和60年に発病した夏目さんの映像に「あの頃骨髄バンクがあったなら、きっと僕は46歳になった夏目さんに会えたに違いない」と、ナレーションの小林薫さんが語ります。亡くなられた方の出演の是非についてのご意見も寄せられていますが、待っている患者さんに一日も早くドナーを見つけるために訴求効果があるとして採用されたことをご理解いただきたいと思えます。新キャンペーンが始まって2週間ですが、夏目雅子さんを知らない世代の若者からもドナー登録希望のお問合せを多数いただいておりますことをご報告させていただきます。

国際協力事業の状況（）、HLA照合サービス状況期間

日本 米国	
米国 日本	
日本 台湾	
台湾 日本	
日本 韓国	
韓国 日本	
その他の国 日本	

4半期ごとの掲載です